

これはアストラゼネカ英国本社が2004年1月29日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語表記のままとする。

AstraZeneca PLC 2003年第4四半期・通年業績

「2003年の業績はアストラゼネカの今後の堅調な増収・増益の基盤」

ファイナンシャルハイライト (例外的項目控除前)

グループ	第4四半期	第4四半期	前年	恒常	通年	通年	前年	恒常
	2003	2002	同期比	為替	2003	2002	同期比	為替
		\$m	%	%	\$m	\$m	%	%
売上高	4,875	4,901	-1	-8	18,849	17,841	+6	-
営業利益	849	1,074	-21	-26	4,111	4,356	-6	-11
税引前利益	869	1,081	-20	-25	4,202	4,387	-4	-9
1株当たり利益								
例外的項目控除前	\$0.38	\$0.45	-17	-22	\$1.78	\$1.84	-3	-9
法定会計(FRS3)	\$0.38	\$0.25	+52	+42	\$1.78	\$1.64	+9	+3

伸び率は恒常為替レート (CER)

- 主な成長製品と最近発売された製品の売上は45%増の82億ドルとなり、総売上高188億ドルのおよそ44%を占めるまでになりました。
- 通年の恒常為替ベースの売上高は188億4,900万ドルで、前年と比べ増減なく、Prilosec™(オメプラール)、ゼストリルおよびノルバデックスの米国における26億ドルの売上減をカバーすることができました。
- 通年の営業利益は11%減の41億1,100万ドルでした。これは、製品構成の転換を実現するために要した、計画通りの研究開発投資と販売費・一般管理費への投資によるものです。
- Nexium™の売上は通年で62%増の33億ドルでした。
- セロクエルの売上は通年で27%増の15億ドルでした。2004年1月12日に米国でセロクエルの双極性障害における急性期躁病の適応を取得しました。
- イレッサの通年の売上は2億2,800万ドルで、主に米国における1億200万ドルと日本における1億100万ドルにより達成されました。
- Crestor™の売上は通年で1億2,900万ドルでした。1月16日終了週で、米国スタチン市場の新規処方における Crestor™ のシェアは4.6%に達しました。
- 12月23日にExanta™がフランスで初めて承認されました。また、心房細動における脳卒中の予防を含む主な長期使用の適応症での承認申請が米国およびEUで行われました。
- 通年の配当は13.6%増の0.795ドルでした。2005年末までに完了予定の新たな40億ドルの株の買い戻しプログラムが承認されました。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました：「主な成長製品と最近発売された製品の売上高が45%増の82億ドルに達した2003年の業績によりアストラゼネカは業界でもトップレベルの財務業績が期待できる堅調な増収・増益を達成する成長期を迎えました。2004年度の1株当たり利益は2ドルから2.15ドルの間を予想しています。

2004年1月29日 ロンドン発

Media Enquiries:	Steve Brown/Edel McCaffrey (London) Staffan Ternby (Södertälje) Rachel Bloom-Baglin (Wilmington)	(020) 7304 5033/5034 (8) 553 26107 (302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Mina Blair-Robinson (London) Jonathan Hunt (London) Staffan Ternby (Södertälje) Ed Seage/Jörgen Winroth (US)	(020) 7304 5084 (020) 7304 5087 (8) 553 26107 (302) 886 4065/(212) 581 8720

Interviews with Sir Tom McKillop, Chief Executive and Jonathan Symonds, Chief Financial Officer are available in video/audio and text on <http://www.astrazeneca.com> and <http://www.cantos.com>. Photographs on www.newscast.co.uk.

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート (CER)

通年

通年の売上高は、成長製品の好調な売上がオメプラール、ゼストリル、ノルバデックスの米国での売上減 (26億ドル) を相殺し、通常為替ベースで前年比増減はありませんでした。成長製品および最近発売された製品の売上高は45%増の82億ドルでした。米ドル安により報告ベースの売上成長率はプラス6%に引き上げられました。研究開発費および販売費・一般管理費合計は5.8%増でしたが、為替の影響を含む報告ベースでは14%増となりました。営業利益は恒常為替ベースで11%減でした。通年の1株当たり利益は2002年度の1.64ドル (例外的項目控除前は1.84ドル) に対し、2003年度は1.78ドルでした。

米国の通年の売上高は6%減でした。Prilosec (オメプラール)、ゼストリルおよびノルバデックスの売上合計が72%減少し、その他の製品の売上は36%伸長しました。米国以外での売上は、アジアパシフィックでの16%の売上増が寄与し、6%増でした。欧州の売上は2%増でした。

Nexium™の通年の売上高は、米国とその他の地域 (米国、欧州、日本以外の地域) の力強い成長 (それぞれ62%と60%) に牽引されて33億ドルに達し、米国のPPI市場の総処方における市場シェアは25%を越えました。

循環器製品の売上は、ゼストリルが50%減少し、その他製品で19%増となったものの合計では3%増でした。Seloken™/Toprol-XL™の売上は38%増で、初めて10億ドルの大台を超えました。Atacand™の売上は21%増でした。Crestor™の通年の売上 (発売25カ国) は米国の9月発売以降の売上6,200万ドルを含む1億2,900万ドルでした。Crestor™のすべての発売国における処方を合計すると、現在までに、推定150万件以上の処方がなされたと考えています。1月16日終了週で米国のスタチン市場の新規処方におけるCrestor™のシェアは4.6%に達しました。

12月に、Exanta™が整形外科手術時および手術後の静脈血栓塞栓症予防の適応症でフランスで最初に承認されました。フランスは、この適応症の承認取得における欧州相互認証方式の幹事国です。12月にはまた、心房細動における脳卒中の予防を含む最初の主な長期使用の適応症に関する承認申請を欧州と米国で行いました。

呼吸器製品の売上は15%増でした。Symbicort™の売上は主に欧州で達成され5億4,900万ドルでしたが、慢性閉塞性肺疾患の治療薬として承認されたことでマーケットシェアが拡大し、喘息治療におけるユニークな調節可能な用法用量を訴求したことが達成要因です。パルミコートRespules™とRhinocort™ Aquaも呼吸器フランチャイズの堅調な業績に貢献しました。

オンコロジー製品の売上は、米国での後発品によるノルバデックスの売上減にもかかわらず、8%増でした。カソデックスの売上は米国以外の地域での売上伸長により22%増でした。アリミデックスの売上は早期乳がんにおける使用が増えたため46%増でした。イレッサの売上は通年で2億2,800万ドルに達し、主に米国と日本 (それぞれ1億ドル強) において達成されました。米国において42,000件を超えるイレッサの小売処方が2003年5月の発売以降に調剤されました。

ニューロサイエンス製品の売上は、米国 (22%増) とその他の地域 (45%増) におけるセロクエルの売上伸長により、12%増でした。今月初め、セロクエルの両極性障害における急性期躁病の治療薬としての承認を米国FDAから取得しました。

第4四半期

第4四半期の売上高は恒常為替ベースで8%減でしたが、米ドルに対する為替変動により報告ベースの売上高は1%減に留まりました。予想通り、米国の第4四半期の売上高はPrilosec(オメプラール)、ゼストリルおよびノルバデックスに対する後発品の攻勢のみならず、予測された卸在庫(主にNexiumとToprol - XLに関し第3四半期末に通常レベルよりも3億ドル高いと推定されていた)の減少によってもマイナス影響を受けました。通常レベル以上と考えられた製品の卸在庫は年度末の時点で1億ドル未満にまで低下したと考えています。米国におけるNexiumの第4四半期の売上高は12%増で、これは処方傾向を下回るものでした。その結果、年度末の卸在庫は通常レベルとなりました。Toprol - XLについても大幅な卸在庫減がみられましたが(米国の売上高は昨年の第4四半期に比べ21%減)、そのレベルは年度末で依然として通常よりも高いものでした。

第4四半期の米国以外の売上高は、欧州での5%増、アジアパシフィックでの8%増を含み、恒常為替ベースで7%増でした。

研究開発費および販売費・一般管理費合計は恒常為替ベースで8%増でした。第4四半期は売上が減少したこともあり、営業利益は26%減少しました(為替のプラス影響が5ポイントあったため報告ベースの営業利益は21%減)。第4四半期の1株当りの利益は0.38ドルでしたが、前年同期は0.25ドル(例外的項目控除前で0.45ドル)でした。

今後の見通し

業績に与える後発品の影響が減少するにつれ、新製品の継続的な好業績により今後数年間は堅調な増収・増益が達成できる見通しです。当社は、今後数年間の財務業績は大手国際医薬品企業の中でベストにランクするようなものになると考えています。

2004年度は、為替レートが現行のレベルで推移すれば、1株あたり利益は2ドルから2.15ドルの間を予想していますが、実際の利益は為替レートの変動およびNexium™、Crestor™、セロクエルの売上に敏感であると考えています。

注意: 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長(特に、Crestor™、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、アリミデックス、イレッサ)、Exanta™の承認取得、上市の成功、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確実要素です。これらやその他のリスクや不確実要素については、2002年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

伸び率は恒常為替レート (CER)

消化器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	528	1,115	-58	2,565	4,623	-49
Nexium™	836	686	+17	3,302	1,978	+62
合計	1,387	1,819	-29	5,943	6,664	-16

- Nexium™ の米国における通年の売上は62%増の24億7,700万ドルでした。Nexium™ の総処方件数は46%増、米国PPI市場の総処方のシェアは年間を通じ5%近く増加し、12月には25.3%に達しました。
- Nexium™ の米国における第4四半期の売上は、第3四半期に大幅に上昇した卸在庫レベルが年末までに通常レベルまで戻ったため、12%増でした。
- Nexium™ の米国以外の地域での通年の売上は、欧州の主要国、特にフランス、ドイツ、英国での大幅な売上増とオーストラリアにおける好業績により、60%増でした。
- 当社は、Nexium™ の注射剤の欧州相互承認手続きが完了したことを2004年1月14日に発表しました。米国においては現在FDAによる承認審査中です。
- Prilosec™ の米国における売上は、処方減を反映し、通年で70%減でした。年末の時点で、オメプラゾールの処方総数におけるPrilosec™ のシェアは27.4%まで減少しましたが、売上減少分は後発品が占めています。
- 米国以外の市場では、Losec™ の売上は日本で引き続き大幅に伸長（39%増）しましたが、日本以外では全ての主な市場で売上は減少し、全体としては16%減でした。

循環器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	246	263	-10	1,280	901	+38
Atacand™	207	160	+18	750	569	+21
Plendil™ (スプレンジール)	157	139	+8	540	489	+5
ゼストリル	136	144	-15	478	877	-50
Crestor™	41	-	n/m	129	-	n/m
合計	990	894	+3	3,910	3,569	+3

- Seloken™ / Toprol-XL™ の通年の売上は、米国における大幅な伸長（47%増）を反映して初めて10億ドルを超えました。
- 米国でのToprol-XL™ の総処方件数は25%増で、12月にはベータ遮断剤の総処方件数におけるシェアは前年度比2.6ポイント増の26.2%でした。
- 予想通り、米国でのToprol-XL™ の第4四半期の売上（21%減）は卸在庫の減少によりマイナス影響を受けましたが、年度末には、卸在庫は通常レベルよりも高いレベルにありました。
- Atacand™ の通年の売上は米国で28%増、全世界の売上の3分の2近くを占める米国以外の市場で18%増でした。米国の売上増は総処方件数の伸びを上回っており、卸在庫が増加したことを示しています。
- Crestor™ の通年の売上は、米国での6,200万ドルを含む1億2,900万ドルでした。

- 2003年2月のカナダでの最初の発売以降、75万人以上の患者がCrestor™の投与を受け、150万件を超える処方となされたと当社は推測しています。市販後調査（PMS）の結果Crestor™の優れた忍容性と安全性は他の既存のスタチン製品と同様であることが確認されています。
- Crestor™の初期の発売国はカナダ、オランダ、英国などです。最新の市場調査データによると、これらの市場の処方総数におけるCrestor™のシェアはそれぞれ6.9%（カナダ）、8.2%（オランダ）、および2.9%（英国）に達しました。
- 米国ではCrestor™は9月中旬に発売されました、1月16日終了週で、米国のスタチン市場の新規処方におけるCrestor™のシェアは4.6%で、非常に競合の激しい市場において良いスタートを切りました。新規スタチン治療（新規処方ならびに他剤からの切り替え処方のみ）におけるCrestor™のシェアは13.7%です。

呼吸器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
Symbicort™	172	105	+43	549	299	+61
パルミコート	294	237	+17	968	812	+12
Rhinocort™	92	76	+17	364	299	+19
アコレート	31	52	-42	107	144	-28
Oxis™	29	29	-10	120	120	-12
合計	661	537	+14	2,261	1,818	+15

- Symbicort™の通年の売上は61%増の5億4,900万ドルでした。これは急成長を遂げている配合剤喘息治療薬市場において同製品が引き続きシェアを獲得したためです。慢性閉塞性肺疾患の適応での上市と喘息治療におけるユニークな調節可能な用法用量のプロモーションがこの売上増を牽引しました。
- 当社は、EUで新しい喘息治療法である Symbicort™ Single inhaler Therapy (SiT) に関する承認申請を行ったことを、12月9日に発表しました。SiTとはSymbicort™の調節可能な維持療法の用法用量を更に改良したものです。Symbicort™ SiTの導入により、医師にとっても患者にとっても、喘息治療の利便性がさらに改善されることが期待されます。
- パルミコートの通年の売上は米国市場での伸長（41%増）により12%増でした。この売上増の大部分は米国市場の処方総数が年間32%伸びたパルミコート Respules™によるものでした。
- 全世界の通年のRhinocort™の売上は19%増でしたが、この伸長の大部分は米国におけるRhinocort™ Aquaの売上増（58%増）により達成されました。

オンコロジー（がん領域）

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
カゾデックス	207	184	+2	854	644	+22
ゾラデックス	239	206	+5	869	794	-
アリミデックス	147	92	+47	519	331	+46
イレッサ	92	41	+114	228	67	+227
Faslodex™	21	16	+31	77	35	+120
ノルバデックス	40	138	-74	178	480	-66
合計	750	681	+1	2,743	2,369	+8

- カゾデックスの米国以外の市場での通年の売上は、早期前立腺がん治療への継続的な浸透により、23%増でした。日本の売上は28%増、ドイツおよびイタリアの良好な伸びが寄与した欧州の売上は20%増でした。
- 米国の進行前立腺がん治療としての抗アンドロゲン剤市場はかなり成熟しており、年間を通じ、カゾデックスの需要はほとんど変化しませんでした。報告された18%の売上増は2002年に発生した卸在庫の減少を反映したものです。
- アリミデックスは乳がん治療薬としてのアロマターゼ阻害剤のリーディングプロダクトです。57カ国で同剤の早期乳がんのアジュバント療法(術後補助療法)での使用が承認されています。通年の売上は米国で47%増、米国以外の市場では45%増、うち日本では61%増でした。
- Faslodex™ の通年の売上は7億7,000万ドルに達し、これは、実質、米国市場における売上です。Faslodex™ のEUにおける正式な承認を近い将来取得する見通しで、最初の発売は第2四半期を予想しています。
- イレッサの通年の売上は2億2,800万ドルで、日本（1億100万ドル）と米国（1億200万ドル）でほぼ二分しています。12月単月で米国において7,300件を超えるイレッサの小売処方調剤が調剤され、5月の発売以降の累計処方件数は42,000件を超えました。

ニューロサイエンス

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
セロクエル	428	357	+17	1,487	1,145	+27
ゾーミグ	104	94	+4	349	328	-1
ディプリバン	119	117	-3	458	443	-2
局所麻酔	122	121	-9	466	432	-
その他	19	16	+6	73	70	-7
合計	792	705	+7	2,833	2,418	+12

- セロクエルの米国以外の市場での通年の売上は44%増でした。欧州の売上は40%増、日本の売上は67%増でした。
- セロクエルの米国での通年の売上は22%増の11億3,400万ドルでした。米国のセロクエルの年間総処方件数は34%増でした。米国の抗精神薬市場におけるセロクエルのシェアは12月に過去最高の21.2%に達し、前年同期と比べ3.4%増でした。セロクエルは上位3ブランドのうち2003年にマーケットシェアを伸ばした唯一の製品でした。
- 第4四半期セロクエルの処方件数は米国で33%増でした。売上は2002年第4四半期比16%増でしたが、これには、ある程度の卸在庫の増加が含まれています。
- 当社は、セロクエルの双極性障害における急性期躁病の適応症の承認を米国FDAから取得したと2004年1月12日に発表しました。

- ゾーミッグの通年の売上は米国以外の市場で7%増、米国市場で8%減でした。2004年1月1日から、スペシャルティ医薬品企業であるMedpointe Inc.が2003年第3四半期発売のZomig™ Nasal Sprayを含む一連の片頭痛治療薬ゾーミッグブランドの医療用医薬品の米国におけるプロモーションおよび販売を担当しています。

地域別売上高

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2003	2002		2003	2002	
米国	2,044	2,564	-20	8,747	9,351	-6
欧州	1,846	1,528	+5	6,709	5,695	+2
日本	356	314	+3	1,189	977	+14
その他の地域	629	495	+14	2,204	1,818	+16

- 米国の通年の売上高は、後発品により売上が減少したPrilosec™、ゼストリル、ノルバデックスの3製品を除き、36%増、総売上高の減少率は6%にとどまりました。堅調な売上増を達成した成長製品には、Nexium™ (62%増)、Toprol-XL™ (47%増)、セロクエル (22%増) があります。これに加えて、イレッサと Crestor™ が2003年米国で上市しました。
- 欧州の通年の売上高は2%増でした。Nexium™ (55%増)、Symbicort™ (53%増)、セロクエル(40%増)、オンコロジー製品群(18%増)の大幅な売上増が、 Losec™、ゼストリルおよびパルミコートの上回りました。
- 日本の通年の売上高は、オメプラール (39%増)、セロクエル (67%増)、オンコロジー製品群 (16%増) の売上増の結果、14%増でした。
- その他の地域の通年の売上高は、中国、メキシコおよびオーストラリアでの好調な売上増により、16%増でした。

営業レビュー

伸び率は恒常為替レート (CER)

通年

報告ベースで売上高は6%増、営業利益は6%減でした。恒常為替ベースで、売上高は変わらず、営業利益は11%減でした。2003年度も引き続き為替の変動による大きな影響がありました。2002年度の平均レートに比べ、米ドルはユーロに対し17%安となり、売上に対してプラス影響を与えました。一方、米ドルはスウェーデンクローナに対し17%安、英ポンドに対し9%安となり、報告ベース営業費用の増加要因となりました。

営業利益率は24.4%から21.8%に減少しました。売上総利益率に対するプラス影響が販売費・一般管理費と研究開発費の売上比に対するマイナス影響に相殺されたため、営業利益率に対する為替の影響はありませんでした。売上総利益率は3つの要因により74.7%から1.6ポイント増の76.3%でした。その要因は、メルク社に対する支払い比率の低下（支払い対象となる製品の売上減少による）による利益率の改善（1.7ポイント）、売上原価の上昇（0.7ポイント）、その他、主に為替差益です。

全体として、研究開発費と販売費・一般管理費は恒常為替ベースで6%弱増加し、それに加え、為替変動によりさらに8%増加しました。売上高は増減ありませんでしたが、研究開発費、販売費・一般管理費ともに対売上比で上昇し、為替により更に0.6ポイント全体として上昇しました。研究開発費は1.1ポイント増の対売上比18.3%となり、販売費・一般管理費は、Crestorの発売と欧州、日本における営業担当者の増員により、2.8ポイント増の対売上比36.4%でした。

その他営業利益は2002年第1四半期に発生したSular営業権利の売却益を含む前年に比べ4,300万ドル減少しました。

第4四半期

報告ベースで売上高は1%減、営業利益は21%減でした。恒常為替ベースでは、売上高は8%減、営業利益は26%減でした。

営業利益率は前年同期の21.9%から17.4%に低下しました。全体として、営業利益率に対する為替の影響はありませんでした。売上総利益率は74.4%から3.9ポイント上昇し78.3%でした。このうち3ポイントはPrilosec™の売上低調によるメルク社への支払い比率の低下およびNexium™とToprol-XL™の在庫減少によるもので、さらに売上原価率の低下と為替効果による0.7ポイントの改善効果がありました。

研究開発費、販売費・一般管理費の合計は恒常為替ベースで8%伸び、為替変動により更に9%伸びました。研究開発費、販売費・一般管理費ともに対売上比率が上昇しました。これは、売上が対2002年第4四半期で減少したうえに経費が増大し、為替の影響もあったためです。研究開発費の発生が第4四半期に片寄ったために3.2ポイント増で21.4%でした。第4四半期には、12月に締結した複数の共同研究契約の一時金支払いや探索研究および開発部門の増員による費用が発生しました。販売費・一般管理費は、新製品の上市関連費用の支出により6.1ポイント増で対売上比40.0%でした。

卸在庫

卸在庫の状況は四半期別売上に引き続き影響を及ぼしています。予想どおり、第3四半期末に3億ドル超過していたレベルから1億ドルをはるかに下回る超過額のレベルまでの低下しました。通年ベースでは、卸在庫の状況が売上伸長に与えた影響は非常に軽微、あるいは、なかったと推測されます。

利息

当四半期の正味利息・配当収入は2,000万ドル、通年では9,100万ドルでした。2003年は第4四半期、通年とも2002年に発生した複数の為替や時価評価損失が無かったため、収入が増加しました。

税金

実効税率は、第4四半期で26.0%、通年では27.2%でした。2002年度通年の実行税率は26.8%でした。

第4四半期に当社は、1987年から2001年までを対象とする旧ゼネカ製品移転価格に起因する税債務に関し、英国ならびに米国政府との協議を終結しました。

キャッシュフロー

例外項目調整前の営業活動によるキャッシュフローは本年通年で前年通年の56億8,600万ドルから、46億1,700万ドルに減少しました。これは主として運転資本の増加によるものです。運転資本は2002年では3億500万ドル減少しましたが、2003年は11億100万ドル増加しました。米国での12月の売上高が大きかったことと米国よりも平均支払い期間が長い欧州での売上比率増などにより債権は5億4千万ドル増加しました。ヨーロッパ通貨および日本円の高騰により、昨年比べてキャッシュフロー効果は増大しました。これに加えて、年金基金への前払いが増加し、特に、英国の基金には1億6,500万ドルの一時金の支払いが発生しました。成熟製品の在庫は減少しましたが、Crestor™（上市のため）およびその他の急成長製品の在庫は1億3,100万ドル増加しました。メルク社への支払い債務が減少したこと、および、2002年末には米国とスウェーデンで年金基金に対する複数一時金支払いが発生したため、債務は4億3,000万ドル減少しました。

例外項目の現金支出は、主にゾラデックスの調査にかかわる3億5,500万ドルの和解金の支払いにより、3億9,100万ドルに増加しました。

納税額は、移転価格関連の和解金を含む8億8,600万ドルでした。無形資産と新たな固定資産への投資を含む資本支出は総額15億9,700万ドルでした。為替変動の影響を除くと、有形固定資産への支出は2002年をやや下回りました。Marlow Foodsの売却は通年でキャッシュフローに8,000万ドル貢献しました。

12億2,200万ドルの配当支払いおよび11億700万ドルの株の買い戻し費用を差し引き、正味キャッシュファン드는3億4,800万ドル減少し、2003年12月31日現在で34億9,600万ドルとなりました。

配当

取締役会は、第2回中間配当を15%引き上げ1株当たり0.54ドル（29.4ペンス、3.91クローナ）を2004年4月6日に支払うことを提案しました。これにより通年の配当は13.6%増の0.795ドル（45.3ペンス、5.98クローナ）となります。

増益にともない配当を引き上げる一方で、EPS対配当倍率を2倍と3倍の中間レンジに置くことを取締役会は意図しています。

株の買い戻しプログラム

当四半期中に総額5億4,700万ドルで普通株式1,170万株が買い戻され消却されました。その結果、通年の買い戻しは総額11億5,400万ドルで2,720万株となりました。

これは、1999年8月に開始された40億ドルの買い戻しプログラムの最終買い戻しです。このプログラムがスタートしてから、買い戻し消却された株の総数は9,280万株、買い入れ総額は39億5,900万ドルです。

取締役会は、マーケットアクセスが継続することとキャッシュの戦略的使用がないことを前提に、期間を2005年末までとする新たな40億ドルの買い戻しプログラムを承認しました。

2003年12月31日現在 発行株式は16億9,300万株です。

今後のマイルストーンおよび主なイベント

4月29日	第1四半期業績発表
4月29日	年次株主総会
7月22日	第2四半期業績発表
10月6日	アニュアル・ビジネス・レビュー
10月21日	第3四半期・9ヶ月間業績発表

トム・マキロップ卿
最高経営責任者